

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8341
担当部課名	保健福祉部	保育	課	管理 係
事務事業名	児童福祉関係団体補助金(保育ウィーク)		事業コード	13110

1 総合計画における位置づけ

政策名	1 第 3 章	子どもが健やかに育つ環境づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第 1 節	子育て環境づくりの推進	~63 年度
施策名	第 1 施策	保育環境の整備・充実	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原保育ウィーク実施に関する基本的事項、相模原保育ウィーク実行委員会規約 相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則

3 事業概要

(1) 事業の目的 児童福祉関係団体補助金の中で、相模原保育ウィーク実行委員会補助金を取り上げた。 相模原保育ウィークは、保育所、陽光園の園児とともに保護者や地域住民の参加を得て、保育所、陽光園内における保育内容の理解を一層深め、併せて子育て支援の場として子どもたちの健やかな成長を育むための環境づくりに努めることを目的とする。	(2) 対象(誰、何) 保育園、陽光園の園児とその保護者及び地域住民 対象数 13,139人
(3) 平成13年度事業の内容 ・実行委員会の開催 6回 ・補助金の交付決定 810,000円 ・広報活動 7月~11月 ・プレイベント(3会場、3日間) 6回 ・各園開催事業 11月3日(土)~11月10日(土) ・全園共通開催事業「保育体験と子育て相談」 51園 ・冊子(まとめ紙)作成 20,000冊	(4) 総合計画・実施計画における概要 なし (5) 個別計画の概要 計画名 なし 計画年次 年度~ 年度

4 評価指標

指標名	相模原保育ウィーク各園開催事業参加者目標達成率		
指標式	相模原保育ウィーク各園開催事業参加者数 / 15,000 × 100		
指標設定の意図	各園への参加者数の数値目標を毎年度15,000人と定め、成果を上げることにより、子育て支援を推進する。		

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標	97	88	a 88	b 100	100
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	810	810	810	810
	人員・時間数	(4.0人)	(4.0人)	(4.0人)	(4.0人)
	人件費	33,680	33,680	33,680	33,680
	その他経費	0	0	0	0
	合計	34,490	34,490	34,490	34,490
特定財源	0	0	0	0	0

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 87.6%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b}$	$\frac{87.6}{100.0} \times 100 = 87.6\%$	$\frac{c}{d}$	$\times 100 =$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$		
理由 :	各園ごとの開催事業が地域住民の参加にうまくつながらない場合がある。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	本事業は、各園が開催事業を通じて地域の子育ての拠点となり、地域住民とともに子育てしやすい豊かな環境づくりを推進している。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 :	プレイベントの参加希望者は多いが、各園での事業に結びつかないなど期待した効果がみられない。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適切か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	相模原保育ウィーク実行委員会へ補助金を交付している性格上から、民間等に移管することは不可能である。また、民間対応では、人件費等、必要経費が加算されることが考えられる。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	事業開始当初は、保育園入所希望者が各園の保育内容等の認識や理解を深めるよい機会であったが、現在は保育園の地域に対する子育て支援機能を市民に周知するという意味で、検討の余地がある。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	本事業を実施することにより、在園児の保護者及び地域住民に対し、保育内容の理解を深めるとともに、子育て支援の場として豊かな環境づくりを推進している。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明 : 広報活動を積極的に行い、各園開催事業の内容を検討し、更に充実させる。
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明 : プレイベントを廃止し、また、チラシや冊子等を簡略化することにより、必要経費を削減することが可能である。

7 総合評価

評価 B ▼	他自治体の類似事業との比較		
		今後の進め方	
<input type="checkbox"/>	継続	説明 相模原保育ウィークは、昭和55年に保育まつりとして始まり、平成6年度に保育ウィークを定めその期間内で事業を実施しているが、事業内容も充実し拡大してきている。今後は、プレイベントを廃止し、各園の催し物等を中心に事業計画に取り組み、参加者を増やし、地域との連携をとりながら、子育て支援の場となる豊かな環境づくりを推進していく。	
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--